

シャクヤク特報



JA中野市営農センター
JA中野市シャクヤク部会

いよいよ、春めいてきました。日々のお仕事お疲れ様です。昨年早いところでは露地の萌芽が2/24日頃から始まっていましたが、今年は積雪が多く融雪が遅れたため、生育が遅れております。無加温作型から露地作型へ流れるように出荷できるように小トンネル等を設置し、凍霜害対策と計画出荷に努めましょう。

母の日5月8日(日)のギフト対応できるように計画出荷をお願いします。

赤色、2条作型富士が不足しています。

露地の除草剤散布は、萌芽が開始している場合、株元を避けて行いましょう(末尾参照)。

1、被覆時期 (5月中旬出荷 2条簡易ハウス、小トンネル栽培)

- (1) 2条簡易ハウスでは萌芽後の低温の影響があるため、3月中旬が被覆時期です。
- (2) 小トンネル栽培では除去時期の低温を考慮して4月上旬頃が被覆時期です。
露地物よりも1日でも早く出荷することに価値があります。



2、ハウス栽培の要点

- (1) 2条簡易ハウスでは、萌芽前は密閉し地温の上昇をはかる。萌芽始めから日中はハウスの換気を行い、25℃を超えないように管理し夜間はなるべく温度を下げないよう10℃前後の保温に努めて下さい。雨の日も換気をし、灰色かび病の発生を抑制しましょう。
- (2) トンネル栽培では高温になるため穴あきのポリ(アーケルフィルム)を使用するか、又は萌芽後50~60cm間隔に、直径10cm程度の穴を数箇所開けるようにして下さい。またトンネルの除去時期はシャクヤクの頂点がトンネルに当たる直前にはずしましょう。
- (3) 灌水は、草丈を充実させるため萌芽後に1回、蕾肥大化のため着蕾時に1回として、合計株元に2回は行いましょう。
灌水を行う時間帯は、夕方以降茎葉がぬれていると病気の発生が心配されるため午前中の灌水としましょう。
- (4) 立本数は、太茎の品種(サラベル、バンカヒル等)は1株30~40本、細茎品種(奥信濃)は45~50本を目安に整理します。但し周囲に欠株があるときは多く残して下さい。
立ち本数が多めで草丈が不足している場合は細い芽を整理し、残した茎に養分がまわるようにしましょう。

4、温度管理

- (1) 夜温が下がり、低温による凍霜害が心配されます。着蕾時が最も耐寒性が弱いとされる時期です。
この時期に0℃以下9時間に遭遇するとブラインド(蕾の生育が停止すること)になりやすいため、保温に努めて下さい。

5、防除等

無加温ハウス

回数	散布時期	生育期	使用薬剤と濃度	水100ℓ当り 薬量(g)	10a当り 散布量(水)	対象病害虫
3	3月中旬	展葉期	トレノックスフロアブル 500倍	200	200ℓ	灰色かび病

2条簡易ハウス

回数	散布時期	生育期	使用薬剤と濃度	水100ℓ当り 薬量(g)	10a当り 散布量	対象病害虫
1	3月中旬	萌芽期	オーソサイド水和剤 80 600倍	166	200ℓ	立枯病
			オルトラン水和剤 1,500倍	66		アブラムシ類他
2	4月上旬	展葉期	ゲッター水和剤 1,000倍	40	200ℓ	灰色かび病
3	4月下旬	展葉期	トレノックスフロアブル 500倍	200	300ℓ	灰色かび病

小トンネル、露地

回数	散布時期	生育期	使用薬剤と濃度	水100ℓ当り 薬量(g)	10a当り 散布量	対象病害虫
1	4月上旬	萌芽後期	オーソサイド水和剤 80 600倍	166	200ℓ	立枯病
			オルトラン水和剤 1,500倍	66		アブラムシ類他
2	4月下旬	展葉期	ゲッター水和剤 1,000倍	100	300ℓ	灰色かび病

※茎葉に赤い斑点が入る圃場は、草丈10cm時に薬剤散布しましょう。ご相談ください。

※除草剤 露地萌芽前に遅れずに散布し、シャクヤクへの影響がないようにしましょう。除草剤についてご質問があればご相談ください

お問い合わせ 園芸課 久野：080-6998-0407

◎本年は、気温、地温が高いため病害虫の早期発生が懸念されます。ハウス作型では、ネキリムシ類による萌芽後芽の食害が見られています。ガードベイトAを3kg/10a株元散布をお願いします。

◎引き続き、施設管理 降雪時の対策(除雪、加温等)と春先の強風の備え(ネットによる押え、ビニールたるみの修繕、排水対策等)をおこなってください。